

コーディングマニュアル(和漢古書に関する抜粋集)

(平成14年度第3回図書館情報委員会承認)

1. 適用範囲・書誌レコードの作成単位

原則として、和古書は1868年以前、漢籍は1912年以前のものを和漢古書とする。

ただし、幕末のもの、清朝末期のものにおいて、近代的印刷技法・出版形態によって大量出版されたものについては、和漢古書扱いとしなくてもよい(版毎に書誌レコードを作成し、その書誌レコードを共有する)。

また、明治期/民国以降のものであっても、和漢古書としての取扱いが適当と思われる書写資料、少数部数の刊行物などの場合は、和漢古書扱いとする。

和漢古書は、記述対象資料毎に特有な記述が必要であるため「稀観本」扱い(「目録情報の基準」第4版)4.2.3)とし、記述対象資料毎に別書誌レコードを作成する。また、その旨を最初の注記として記録する。

例) NOTE: 和漢古書につき記述対象資料毎に書誌レコード作成

和漢古書として登録されたレコードは、原則として一所蔵一書誌であるので、他機関とのレコード調整は行わない。

2. 通則

章立て未定(各々、該当部分に追加)

ア) 情報源

和漢古書においては、各書誌的事項の情報源として有効である箇所及びその優先順位は、時代により、分野により、更には当該資料により異なる。従って、原則としてその資料全体が情報源として検討される必要がある。この原則のもとに、各書誌的事項は、それぞれのフィールドについて比較的有効である下記の情報源を参考にして記録する。

- 1) タイトルと責任表示に関する事項 -
 - 巻頭、題簽、外題
 - 目首、自序、自跋、巻末(尾題も含む)
 - 奥付、奥書、見返し、扉、版心、小口書、著者・编者以外の序跋、識語等
- 2) 出版・頒布等に関する事項 - 刊記、奥書、見返し、扉、序、跋、識語等
- 3) 形態に関する事項 - その資料から
- 4) 書誌構造リンク - その資料から
- 5) 注記 - どこからでもよい

タイトルについては、巻頭以外を情報源とした場合にはNOTEフィールドにその情報源を示す。

また、各書誌的事項において、識語及び後補書入を情報源とした場合には、NOTEフィールドにその旨を記録する。その他、各データ要素において必要があるときは、NOTEフィールドにその情報源を示す。

イ) 記録の方法

1) 転記の原則

特に規定されている場合を除き、原則として記述対象資料に表示されているままに記録する。

転記の原則に従えない事情がある場合には、何らかの方法によって当該フィールドに表現し、その内容等をNOTEフィールドに記録する。

(例) TR: 一口[にわ]かいろは節用

NOTE: タイトル中の「にわ」部分は、丸()を2個重ねている形

2) 文字の転記

変体がな

変体がなは平がなに改める(NCR87R2 1.0.6.3 及び NCR87R2 2.0.6.3)。かなの母体となっている漢字(字母)表記をVT フィールドに記録することができる。

タイトルの種類はVT(異なりアクセスコード)を使用する。なお、繁雑になる場合は検索に有効なものを優先する。

(例) TR: となみ山

VT: VT: 刀奈美山

踊り字

踊り字(「々」「ゝ」「ゞ」「ゝ」「ゞ」「ㄥ」など)は、そのままの形をTR フィールドに記録する。本来の文字を繰り返した形はVT フィールドに記録する。タイトルの種類はVT(異なりアクセスコード)を使用する。

2文字分以上にわたる長さのものなど、踊り字を転記できない場合は、本来の文字を繰り返した形をTR フィールドに記録する。NOTE フィールドに踊り字であることを記録する。

(例) TR: つれつれ草

NOTE: 書名の繰り返し部分は踊り字

3) 補記

記述対象資料以外から得た情報を補って記録する場合は、その事実を示すため当該事項を角括弧([])に入れる。

4) 誤記、誤植、誤刻

誤記、誤植、誤刻が明らかなきは、正しい形に訂正し、訂正したことがわかるように記録する。また、NOTE フィールドにその旨を記録する。

タイトルに誤表示がある場合は、検索に支障のないよう、正しい形及び誤って表示された形をVT フィールドに記録することができる。

5) 脱字

脱字が明らかなきは、その字を角括弧([])に入れて補記し、その旨をNOTE フィールドに注記する。

タイトルに脱字がある場合は、検索に支障のないよう、正しい形及び誤って表示された形をVT フィールドに記録することができる。

6) 判読不可能文字及び推読文字

破損その他の理由で判読できない文字は四角(□ = WHITE SQUARE)を用い、該当文字数を並べる。字数不明の時は、「・・・」とする。推読文字については、角括弧([])に入れて補記する。

(例) 天 宮御伝記略

天 …… 記略

天[満]宮御伝記略

3. 巻冊次等 VOL

2.1.11E (追加)

複数の巻冊次が併用されている場合

和漢古書では、現在の形態にもとづく巻冊次と別系統の巻冊次がある場合で、別系統の巻冊次がよりふさわしいと判断した場合には、それを採用してもよい。

(例) VOL:巻第 1

VOL:巻第 2-3

VOL:巻第 4-7

VOL:巻第 8-9

VOL:巻第 10-13

VOL:巻第 14-15

VOL:巻第 16-19

VOL:巻第 20-23

VOL:巻第 24-27

VOL:巻第 28-30

TR:南山史 30 巻 / 成島讓編輯

PHYS:10 冊 ; 26.5 × 18.5cm

NOTE:表紙の書き入れによる冊次: 巻第 1: 一, 巻第 2-3: 二, 巻第 4-7: 三, 巻第 8-9: 四, 巻第 10-13: 五, 巻第 14-15: 六, 巻第 16-19: 七, 巻第 20-23: 八, 巻第 24-27: 九, 巻第 28-30: 十

NOTE:巻第 1: [36] 丁, 巻第 2-3: [32] 丁, 巻第 4-7: [38] 丁, 巻第 8-9: [29] 丁, 巻第 10-13: [35] 丁, 巻第 14-15: [33] 丁, 巻第 16-19: [37] 丁, 巻第 20-23: [28] 丁, 巻第 24-27: [30] 丁, 巻第 28-30: [31] 丁

(例) 各冊の表紙に貼られた題簽(刷)に「乾」「坤」とある場合

VOL:巻之 1-5

VOL:巻之 6-10

NOTE:題簽による冊次: 巻之 1-5: 乾, 巻之 6-10: 坤

2.1.11F1.1 の 2 つ目のパラグラフ (例を追加)

(例) 記述対象資料に「巻之一」「巻之二三」と表示されている場合

VOL:巻之 1

VOL:巻之 2-3

(例) 記述対象資料に「上ノ三四五」「下ノ三四終」と表示されている場合

VOL:上ノ 3-5

VOL:下ノ 3-4

4. タイトル及び責任表示に関する事項 TR

〔データ要素の情報源〕

2.2.1E(「また、古刊本、古写本等の場合は…」以下を変更)

和漢古書の場合には、原則として記述対象資料全体を情報源とするが、その中でも比較的有効である情報源は下記の通りとする。

(1) 巻頭、題簽、外題

(2) 目首、自序、自跋、巻末(尾題も含む)

(3) 奥付、奥書、見返し、扉、版心、小口書、著者・編者以外の序跋、識語等

タイトルについては、巻頭以外を情報源とした場合にはNOTE フィールドにその情報源を示す。

2.2.1F1.5(条文の後に追記)

和漢古書の場合には、記述対象資料中のどこにも本タイトルがない場合は、適切な情報源による本タイトルか、目録作成者が決定した簡潔で説明的な本タイトルを補記する。本タイトルを目録作成者が決定した場合には、NOTE フィールドにその旨を記録する。また、本タイトルを記述対象資料中の巻頭以外からとった場合にも、NOTE フィールドにその情報源を示す。

(例) TR:[諸国産物絵図帳]

NOTE:本タイトルは目録作成者による

(例) TR:伊曾保物語

NOTE:本タイトルは序首より

〔本タイトル及びタイトル関連情報〕

章立て未定 (新設)

書誌的巻数の記録方法

和漢古書の場合には、書誌的巻数をタイトルの一部として、タイトルの後スペースに続けて、アラビア数字に置き換えて記録する。不完全本の場合は、完全本の巻数を記録し、続いて現存巻数を丸括弧(())に入れて付記する。完全本巻数が不明な場合は、現存巻数のみを丸括弧に入れて付記する。存巻ないし欠巻の内容については、NOTE フィールドに記録する。

なお、記述対象資料が一卷(巻立てがない)の場合には、巻数の記録はしなくてもよい。

(例) TR:八家四六文註 8 巻補 1 巻

(例) TR:八家四六文註 8 巻補 1 巻 (存 7 巻)

NOTE:巻四、補の 2 巻を欠く

(例) TR:天地冥陽水陸雑文 (存 2 巻)

NOTE:存巻 疏下・牒下

また、対象となる資料が多巻ものの零本等にあつては、形態的に独立した特定の部分だけをタイトルとして採用できる。

(例) TR:水族写真巻之一

(例) TR:源氏物語若紫巻

(例) TR:大般若波羅蜜多經卷三百八十二

漢籍の場合、主な著作の書名とその巻数に続けて、「附(増・付)」の字を入れて従属する著作の書名とその巻数を記録する慣習がある。このような場合、主な著作の巻数以下を書誌的巻数として扱ってもよい。

(例) TR:紫峯陳先生文集 13 巻附年譜 1 巻

伝統的に「附(増・付)」として扱われる場合でも、各著作の独立性・従属性、全体の構成、記載箇所等を総合的に判断した上で、書誌的巻数として扱わずに、総合タイトルのない独立した複数の著作として記述する、あるいは内容著作として記述するなどの方法をとってもよい。

章立て未定 (書誌的巻数の後に新設)

和漢古書の合刻本・合写本は、個々の出版物理単位が固有のタイトルを有する場合を含め、1 書誌レコードとして扱ってよい。

必要に応じてNOTE フィールドに、合刻本・合写本であることを記録する。

総合タイトルのある場合は、総合タイトルをTRフィールドに記録し、合刻・合写された各著作のタイトルはCWフィールドに記録する。

総合タイトルのない場合は、次のいずれかの方法による。

ア) NCR2 2.1.1.2D にもとづいてそれぞれの著作のタイトルと責任表示等を列記する。

(1) 総合タイトルのない独立した複数の著作として記述

(例) TR:無量壽經起信論 3 巻 ; 觀無量壽佛經約論 1 巻 ; 阿彌陀經約論 1 巻 / (清) 彭際清述

(2) 一部の著作の著作者がわからない場合は、わかる著作の責任表示を記録する。

(例) TR:おあむ物語 / 山田去暦女著 . おきく物語

(3) 一部の著作の著者が共通している場合は、該当の著作に責任表示を繰返して記録する。

(例) TR:兼好傳考證 / 大国隆正著 ; 村田嘉昇画 . しのぶ山物がたり / 大国隆正著

イ) C.M.2.2.1F1.5 にもとづいて本タイトルを補記し、合刻・合写された各著作のタイトルをCWフィールドに記録する。

ウ) 主な著作のタイトルをTRフィールドに記録し、従属的な著作はCWフィールドに記録する。

(例) TR:救偏瑣言 10 巻

CW:瑣言? 用良方 1 巻

また、これら以外にも、必要に応じて次のように扱ってもよい。

エ) 本タイトルとの関係においてふさわしい場合、著作のタイトルを部編名として扱う。なお、部編名とするものの範囲については、和漢古書にあっては記述対象資料毎に書誌を作成するため、「目録情報の基準」4.2.3の固有のタイトルでないものの範囲の趣旨に配慮しつつ、必要に応じ、より柔軟な対応をとってもよい。

() 「目録情報の基準」4.2.3の例示のほか、漢籍の部編名の例として次のようなものがあげられる。

序説・拾遺・逸文・附考・年譜・注釈・校勘記・考証・通検

〔責任表示及び並列責任表示〕

2.2.1F3.2の条文の後に追記

和漢古書の場合には、記述対象資料中に、責任表示に相当する表示がないとき、記述対象資料以外の何らかの情報源から得られた場合にはそれを補記し、必要があるときはその情報源をNOTEフィールドに記録する。また、記述対象資料中の識語及び後補書入れを情報源とした場合には、NOTEフィールドにその旨を記録する。

2.2.1F3.8として追加

役割表示の補記

情報源に役割表示がないときは、適切な役割を補記する。

- 1) 和古書の場合
著、編、撰、詠、吟、判、詞、画、訳、等々
- 2) 漢籍の場合
撰、輯、選、校、訂、評、注、補、絵、等々

章立て未定（新設）

漢籍の場合、責任表示には王朝名を丸括弧(())に入れて名前の前に付記するのが望ましい。

5. 出版・頒布等に関する事項 PUB

〔記述文法〕

C.M.2.2.3B 5として追加、または「4 製作等に関する事項」に、書写資料についての注記を追加する。

5) 製作等に関する事項(写本の場合)

(図省略)

4) 製作等に関する事項

(図省略)

書写資料の場合は、製作事項における丸括弧(())は省略する。

〔NCR87R2 の区切り記号の採否〕

C.M.2.2.3C(「ただし」以下を追加)

1.4.0.2(区切り記号法)は、ア)、オ)、カ)、ク)を除いて採用する。

カ)の製作項目(製作地、製作者、製作年)は、出版・頒布に関するデータ要素とは別に、PUB フィールドを繰り返したうえで丸括弧(())に入れて記録し、丸括弧の前にはスペースは置かない。ただし、写本においては、NCR87R2 1.4.0.2Aの規定により、丸括弧を省略する。

〔データ要素の情報源〕

C.M.2.2.3E.1(古刊本、古写本に関する2行を変更)

和漢古書の場合には、原則として記述対象資料全体を情報源とするが、その中でも比較的有効である情報源は下記の通りとする。

刊記、奥書、見返し、扉、序、跋、識語等

なお、出版・書写事項を識語及び後補書き入れからとった場合は、NOTE フィールドにその旨を記録する。

また、ここに挙げた情報源以外でも、出版者については、広告、蔵版目録や、記述対象資料に捺印された発行印(出版者標章のようなものも含む)などから採録してもよい。この場合も、NOTE フィールドにその旨を記録する。

記述対象資料によるべき情報源がない場合、あるいは資料に表示されている出版・書写に関わる情報が記録するのにふさわしくない場合は、可能であれば参考資料等を調査して記録する。記述対象資料以外からの情報は、角括弧([])に入れて補記し、参考資料としたものについて必要があるときはNOTE フィールドに記録する。

〔データ記入及び記入例〕

C.M.2.2.3F.1(古刊本に関する2行及び次のフレーズを変更)

また、刊本(刻本)の場合、出版地とそれに対応する出版者等の組が複数表示されている場合は、出版地ごとに一組を記録する。各出版地に複数の出版者が表示されている場合は、顕著なもの、最後のものの順で代表とする一組を選んで記録し、各々に[ほか]と補記する。

(例) PUB:京 : 上村平左衛門
PUB:江戸 : 萬屋清兵衛
PUB:大坂 : 伊丹屋太郎右衛門

(例) PUB:大阪 : 鹽屋長兵衛 [ほか]
PUB:江戸 : 鶴屋金助 [ほか]

NCR87R2(2.4.1.1C、2.4.2.1D)においては一つを選択して記録することとしているが、本システムにおいては、この組を、4つまで記録することができる。なお出版地ごとの、2番目以降の出版者等についても、NOTE フィールドにではなく PUB フィールドに、記述文法に従って複数記録することができる。ただし、2番目以降の出版地、出版者等の入力レベルは「選択」である。

C.M.2.2.3F1.8(修正)

写本(鈔本)については、書写事項(書写地・書写者・書写年)をNCR87R2 3.4の「製作に関する事項」(製作地・製作者・製作年)としてPUB フィールドに記述する。NCR87R2 3.4.2.2A(記録の方法)においては、書写者は記録しないこととしているが、自筆が転写かにかかわらず、すべて「製作者」として記述する。

NCR87R2 3.4.0.2の規定により、書写事項を記述する場合はその全体を丸括弧(())でくくることはしない。

なお、書写地・書写者が不明の場合には記述を省略するか、それぞれ[書写地不明][書写者不明]と補記する。

書写者(製作者)の記録

書写者が転写者であると判明した場合は、NCR87R2 3.4.2.2A 任意規定を採用し、「写」という用語を付して記録する。また、自筆であると判明した場合は、「自筆」という用語を付して記録する。書写者が著者であるのか転写者であるのか判断がつかない場合は、名前のみを記録する。

(例) PUB: : 源吉従写 , 文政元 [1818]
(例) PUB:[書写地不明] : 吉隆 [写] , 寛永14 [1637]
(例) PUB:[書写地不明] : 藤原成元 [自筆] , [寛政年間]

F1.6(以下を追加)

ただし、室町末期頃までのいわゆる古刊本等について、特に記載はないが、版面の状況等から春日版・高野版等書誌学的通称名で示すことのできる版等であることがわかる場合は、この補記は省略することができる。

(例) PUB: , 天正8 [1580]
(例) NOTE:高野版

F1.9(新規追加)

出版地または書写地に記録する古地名はNCR87R2 2.4.1.2Aの規定により、所定の情報源に表示されている出版地または書写地をそのまま記録する。識別上必要があるときは(NCR87R2 3.4.1.2A)、当時の都市名、国名を付記または補記し、地名の別称が表記されている場合は通行のものを補記する。

(例) PUB:江戸 : 西村源六 , 文化12 [1815]

- (例) PUB:寺町 [京都] : 佐々木惣四郎 , 安永 2 [1773] [刊]
(例) PUB:日本橋 [江戸] : 川崎七郎兵衛 , 貞享元 [1684] [刊]
(例) PUB:洛陽 [京都] : 八尾勘兵衛 , 承応 3 [1654]

F1.10(新規追加)

出版者名を記録する場合、NCR87R2 2.4.2.2A(記録の方法)に関わらず、すべて記述対象資料に表示されている名称を記録する。従って、屋号などが表示されている場合も、続けて姓名の表示があればそのまま記録する。

- (例) PUB:皇都 : 伊勢屋額田正三郎

F2(出版年等)

F2.1(新規追加)

刊本については、刊行年が判明した場合、「刊」という用語を付して記録する。別び印行年が判明した場合は、「印」という用語を付して丸括弧(())に入れて付記する。印行年のみが判明した場合は、「印」という用語を付して記録する。刊行年、印行年の判別がつかない場合は、年のみを記録する。

また、写本については、記述対象資料の書写された年を記録する。

- (例) PUB:東都 : 須原屋伊三郎 , 寛政 4 [1789] [刊] (文化 5 [1808] [印])

- (例) PUB:[書写地不明] : 藤雅威 [写] , 享和 3 [1803]

F2.3(F2.1 を F2.2、F2.2 を F.2.3 に変更)

和漢古書の場合、NCR87R2 2.4.3.2A 別法、3.4.3.2A 別法の規定により、記述対象資料に表示されている紀年を当該資料の出版年・書写年として採択する場合は、そのまま記録する。表示されている西暦紀年を付記し、表示のないときは補記する。

- (例) PUB:浪花 : 渋川清右衛門 [ほか] , 宝暦 13 [1763] [刊]

また、干支による表記の場合は、可能であれば、相当する元号と年数による紀年に読み替えて記録する。干支による表記は必要に応じてNOTE フィールドに記録する。

- (例) PUB:京 : 橋屋治兵衛 , 寛政 4 [1792]

NOTE:刊記には「寛政壬子」とあり

- (例) PUB:[建陽] : 翠巖精舎 , 至正 14 [1354] 刊

NOTE:刊記には「至正甲午仲夏」とあり

読み替えができない場合は、推定による補記または出版年不明の扱いとし、干支による表記はNOTE フィールドに記録する。

- (例) PUB:[出版地不明] : [出版者不明] , [江戸中期]

NOTE:甲辰序

また、出版年を推定により補記する場合は、丸括弧(())に入れて西暦年を付記する。干支による表記は必要に応じてNOTE フィールドに記録する。

- (例) PUB:衣棚通御池下ル町 [京都] : 万屋作右衛門 , [貞享 5 (1688) 刊]

NOTE:刊記には「戊辰三月中旬」とあり

出版年・書写年の推定補記

出版年・書写年の記載や序跋等に年の記載がない場合、あるいは資料に表示されている情報が記録するのにふさわしくない場合は、おおよその出版・書写年代を推定し、これを角括弧([])に入れて記録する。出版年・書写年が不明の場合(推定記述も行えない場合)には、[出版年不明][書

写年不明]と補記する。どちらの場合も西暦年の付記は行わない。

(例) PUB:松阪 : 柏屋兵助 , [江戸後期]

(例) PUB:[出版地不明] : [出版者不明] , [文化・文政頃]

(例) PUB:大坂 : 綿屋喜兵衛 , [安政年間]

(例) PUB:古呉 : 致和堂 , [清]

6. 形態に関する事項 PHYS

2.2.4 D(追加)

NCR87R2 1.5.0.0B は適用しない。

2.2.4 F(追加)

PHYS フィールドでは、現在の形態について記述する。原装の形態についてはPHYS に記述せず、必要に応じてNOTE フィールドに注記する。

数量

資料の数量単位として、「冊」の他にNCR87R2 第10章別表・付「特定資料種別の数量表示(单位名称・助数詞)について」の単位も使用できる。

但し、卷子本・掛物類については「巻」ではなく、「軸」を用いる。また、一枚ものには「枚」を用いるが、畳みもの類については「枚」ではなく、「舗」を用いる。

例) 卷子本・掛物類 ... 軸

一枚もの ... 枚

畳みもの ... 舗

折本(帖装)・旋風葉 ... 帖

書簡類 ... 通

2.2.4 F(追加)

大きさ

和漢古書の場合、大きさの記述についてはNCR87R2 2.5.3.2の規定にかかわらず、センチメートルの単位で小数点以下1桁まで記録することができる。また、冊子本等についても、縦・横の順でその長さを「×」で結んで記録することができる。

また、美濃判等、大きさを紙型に対応させた用語等を丸括弧()に入れて付記することができる。尺・寸等の単位や糎等の表記は使用しない。

(例) PHYS:29丁 ; 26.8×19.8cm(大)

7. その他のタイトル VT

2.2.5F4(追加)

和漢古書では、資料中の各所に表示されたタイトルをVTフィールドに記録する場合、タイトルの種類コード「OH(その他のタイトル)」とともに記録し、同時にその表示箇所についての説明をNOTEフィールドに記録する。

従って、和漢古書では資料の各部を表す種類コード「BC(裏表紙タイトル)」「TT(標題紙タイトル)」「MT(題字欄タイトル)」「ST(背表紙タイトル)」「CL(奥付タイトル)」「AT(副標題紙タイトル)」「CP(見出しタイトル)」「RT(欄外タイトル)」「CV(表紙タイトル)」は用いないものとする。

(例) TR:洛陽名所集

VT:OH:山城名所記

NOTE:題簽の書名: 山城名所記

2.2.5F5 (追加)

和漢古書における書誌的巻数は、TR フィールドにおいては本タイトルの一部として扱うが、VT フィールドには記録しないものとする。

(例) TR:水戦法秘訣 3巻 / 佐藤信淵著
VT:OH:水戦秘訣

8. 内容注記 CW

章立て未定 (和漢古書部分に追加)

和漢古書においては、大規模な叢書等で多数の著作が含まれており、CW フィールドの繰返し数を超えるような場合、出版物理単位に関わらず、個々の著作を子書誌として記録してよい。

2.2.6D (例示を追加)

(例) 合写本の場合

TR:類字

NOTE:書名は表紙右上の書き入れによる。左上には右から「江談抄」「古事談」「續古事談」の書き入れあり

NOTE:「江談抄類字」「古事談類字」「續古事談類字」の合写本

CW:江談抄類字

CW:古事談類字

CW:續古事談類字

9. 注記 NOTE

2.2.7F (データ記入及び記入例)

F3 和漢古書についての記入は以下の通りとする。(追加)

書誌作成単位に関する注記

和漢古書は、記述対象資料毎に特有な記述が必要であるため「稀覯本」扱い(「目録情報の基準」第4版)4.2.3)とし、記述対象資料毎に別書誌レコードを作成する。また、その旨を最初の注記として記録する。

(例) NOTE:和漢古書につき記述対象資料毎に書誌レコード作成

(注)和漢古書の範囲:

原則として、和古書は1868年以前、漢籍は1912年以前のものを和漢古書とする。ただし、幕末のもの、清朝末期のものにおいて、近代的印刷技法・出版形態によって大量出版されたものについては、和漢古書扱いとしなくてもよい(版毎に書誌レコードを作成し、その書誌レコードを共有する)。

また、明治期/民国以降のものであっても、和漢古書としての取扱いが適当と思われる書写資料、少数部数の刊行物などの場合は、和漢古書扱いとする。

写本に関する注記

写本(和古書)、鈔本(漢籍)の場合は、その旨を記録する。

(例) NOTE:写本

(例) NOTE:鈔本

通則に関する注記

タイトルについては、巻頭以外を情報源とした場合には、その情報源を示す。また、各書誌的事項において、識語及び後補書入を情報源とした場合には、その旨を記録する。その他、各書誌的事項において、必要があるときも、その情報源を示す。

タイトルに誤表示や脱字がある場合は、検索に支障のないよう、正しい形及び誤って表示された形をVTフィールドに記録することができる。また、NOTEフィールドにその旨を記録する。

転記の原則に従えない事情がある場合には、何らかの方法によって表現し、NOTEフィールドにその旨を記録する。

書誌学的通称名、本文の系統等に関する注記

書誌学的な立場での、特徴、性質等を示す通称名がある場合は記録する。例えば、和古書の場合には、春日版、伏見版、古活字本、丹緑本、奈良絵本等、また漢籍の場合には、宋版、蒙古刊本等を記録する。

本文の系統等(原刻本、流布本、別本、定家本、等)、当該資料を特定できる情報がある場合は、必要に応じて記録する。

タイトルに関する注記

和漢古書の場合には、記述対象資料中のどこにも本タイトルがない場合は、適切な情報源による本タイトルか、目録作成者が決定した簡潔で説明的な本タイトルを補記する。本タイトルを目録作成者が決定した場合には、NOTEフィールドにその旨を記録する。また、本タイトルを記述対象資料中の巻頭以外からとった場合にも、NOTEフィールドにその情報源を示す。

(例) TR:[諸国産物絵図帳]

NOTE:本タイトルは目録作成者による

(例) TR:伊曾保物語

NOTE:本タイトルは序首より

題簽・外題については、必要に応じて転記する。その位置や様式(絵題簽、目録題簽、等)なども記録できる。また、刊本における書き題簽・書き外題、写本における刷り題簽、後補であることが判明した場合等は、その旨を記録できる。

(例) NOTE:題簽左肩双边黄紙「新版絵入 花色紙襲詞」(「新版絵入」は角書)

NOTE:題簽中央後補墨書「焦尾琴 風」

NOTE:外題左肩後補墨書「平家物語巻第一(～十二)」

記述対象資料中の各所に表示されたタイトルをVTフィールドに記録する場合、タイトルの種類コード「OH(その他のタイトル)」とともに記録し、同時にその表示箇所についての説明をNOTEフィールドに記録する。

(例) TR:洛陽名所集

VT:OH:山城名所記

NOTE:題簽の書名: 山城名所記

責任表示に関する注記

記述対象資料中に、責任表示に相当する表示がないとき、記述対象資料以外の何らかの情報源から得られた場合にはそれを補記し、必要があるときはその情報源をNOTEフィールドに記録する。また、記述対象資料中の識語及び後補書入を情報源とした場合には、NOTEフィールドにその旨を記録する。

出版に関する注記

蔵版者等について記録する。魁星印、蔵版印、版元印についても、必要に応じて記録する。

(例) NOTE:見返しに「江戸書林 青藜閣蔵版」とあり

NOTE:刊記中「江戸 須原屋伊八」に蔵版印あり

書写者に書写を命じた依頼者などが判明した場合は、必要に応じて情報を記録する。

広告、蔵版目録や、記述対象資料に捺印された発行印(出版者標章のようなものも含む)などから採録した出版者については、情報源を記録する。

記述対象資料によるべき情報源がない場合、あるいは資料に表示されている出版・書写に関する情報が記録するのにふさわしくない場合は、可能であれば参考資料等を調査して記録する。記述対象資料以外からの情報は、角括弧([])に入れて補記し、参考資料としたものについて必要があるときはNOTE フィールドに記録する。

出版事項の主な典拠である刊記・奥書等を、必要に応じて転記する。

(例) NOTE:刊記に「寛文三稔癸卯 長尾平兵衛開板」とあり

初刷でないことは明らかだが、印行年(刷年)が不明な場合は、「後印本」と記録する。

(例) NOTE:後印本

後修本であるのが明らかである場合は、記録する。

(例) NOTE:後修本

覆刻本であるのが明らかである場合は、記録する。

(例) NOTE:覆刻本

出版年などが干支による表記で、相当する元号と年数による紀年に読み替えができない場合は、推定による補記または出版年不明の扱いとし、干支による表記はNOTE フィールドに記録する。

(例) PUB:[出版地不明] : [出版者不明] , [江戸中期]

NOTE:甲辰序

版式(版面)に関する注記

匡廓、界線について、必要に応じて記録する。

行字数について、必要に応じて記録する。

版心(魚尾、黒口、等)について、必要に応じて記録する。

(例) NOTE:四周单边有界 8 行 18 字、双魚尾

巻冊次と残欠の注記

残欠の状況を記録する。丁単位、表紙等の欠について記入してもよい。

(例) NOTE:存巻 疏下・牒下

NOTE:巻二十四第 20 丁は重複

NOTE:巻一・三に目録なし。巻一初丁表, 巻六第 13 丁裏以降を欠く

VOL フィールドに記録しなかった巻冊次はNOTE フィールドに記録する。

(例) NOTE:題籤による冊次: 巻之 1-5: 乾、巻之 6-10: 坤

装丁に関する注記

袋綴じ(線装)以外の装丁(卷子本、折本、疊物、一枚物、等)については、記録する。
袋綴じ(線装)の様式(三つ目綴じ、康熙綴じ、亀甲綴じ、等)については、必要に応じて記録する。

料紙、表紙などについて、必要に応じて記録する。

(例) NOTE:表紙、本文紙ともに鳥の子紙
NOTE:表紙は原装

印記に関する注記

当該資料中の印記を必要に応じて記録する。印記の所蔵(使用)者が判明した場合は、付記する。

(例) NOTE:印記:「明道館図書記」
NOTE:印記:「林文庫」、「北總林氏藏」(2印とも林泰輔)

判読できないものは、「蔵書印あり」と記録するにとどめる。また、複数ある場合は、必要に応じてその数を記録する。

(例) NOTE:蔵書印3印あり

絵印(だるま形等)など、文字が使用されていない蔵書印は、必要に応じて形を記録する。

(例) NOTE:だるま形の蔵書印あり

旧蔵者、伝来が判明した場合は、必要に応じて記録する。

(例) NOTE:清水浜臣旧蔵

その他(注、訓点、節付記号、識語、書き入れ、付箋、等)

注がある場合は、必要に応じて、「頭注あり」「脚注あり」というように場所を含めて記録する。

本文に訓点等がある場合は、必要に応じて、漢字、片仮名、平仮名の別と共に記録する。

(例) NOTE:付訓あり。右傍:片仮名付訓、左傍:平仮名付訓

謡本等で、本文の横に書かれている記号がある場合は、必要に応じて記録する。

(例) NOTE:節付記号あり

識語、書き入れ、補写、筆彩等がある場合は、必要に応じて記録する。

(例) NOTE:識語「安永四年末九月廿五日はしめてよむ / 小雲泉主人」
NOTE:朱墨の書き入れあり
NOTE:図版の一部に後人の着彩あり

付箋、押紙、貼りこみ、挟み込み紙等がある場合は、必要に応じて記録する。

(例) NOTE:「神武天皇聖蹟調査関係書類」との付箋あり
NOTE:文中和歌に黄と青の押紙あり

帙、箱などについても、必要に応じて記録する。

(例) NOTE:箱入り、箱書(小津桂窓筆)「曲亭馬琴翁書」

虫損等で保存状態がよくないと思われるもの、あるいは補修があるものについて、必要に応じて記録する。

(例) NOTE:虫損あり(裏打ち補修あり)

以上